

平成28年3月30日(水) 古河ボランティアグループとの交流  
古河桃まつり

昨年11月寄居簡保で交流した古河市のボランティアグループのお誘いで、関東では名の通った「古河桃まつり」へ行ってきました。

広大な古河総合公園の中には多数の花桃の木々が植えられ、時期的にも丁度見頃の時期で、平日にもかかわらず茨城県内外の観光バスはもとより、車での観光客も多く訪れていてかなりの賑わい状態でした。

朝9時「くまびあ」に集合し、行田、羽生、加須を通り埼玉大橋を渡って古河市に到着したのが10時25分、約45キロのドライブで、予想していたより近場でした。

予め連絡していた古河ボランティアグループの代表森田芳子さんと落ち合い、「古河桃まつり」を案内していただきました。園内には祭りに合わせて多くの出店がみられ、地元の美味しいものを食べや工芸品などが売られ、桃木の下では宴会風景も見られました。約1時間30分見学した後、古河市庁舎近くの食事処で森田さんと食事をとりながら古河での活動状況や演技などについて意見交換し交流を図りました。

古河市は利根川と渡良瀬川の合流地点で、渡良瀬遊水地で有名です。名物は「鮎の甘露煮」で、老舗に案内してもらい伝統の味甘露煮を土産に購入してきました。

その後、江戸時代の古河城家老である鷹見泉石の屋敷、明治の南画家で古河市に生まれその後熊谷に移り活動した奥原清湖旧居、歴史博物館などを案内していただきました。博物館前の屋敷塀と見事に咲いた「しだれ桜」とのコラボが印象的でした。

帰りには予め用意してくれた名物の「鮎の甘露煮」の土産を戴き予定を過ぎた14時40分頃古河を後にし、途中、加須市にある「十勝甘納豆」のコーヒーと甘味処を食べながら仲間同士の友情を深めて、楽しい一日を過ごしてきました。









